13　参考

☆アクアリウム関連企業の特徴☆

現在、日本には様々なアクアリウム関連の商品を
扱う企業があるが、ここではそれぞれの企業別の
特徴と、得意とする商品（部門）について紹介する。

GEX（ジェックス）→アクアリウム関連の商品を
総合的に扱っている。水槽や
ヒーターなどの商品を得意とする。
テトラジャパン→アクアリウム関連の商品を
総合的に扱っている。
水質コンディショナーを得意とする。
水作→主にろ過機を扱っている企業。
投げ込み式フィルター「水作エイト」は有名。
コトブキ工芸→総合的な商品を扱っている。
「クリスタル水槽」などの水槽が得意。
フレックス→主に麦飯石溶液を製造・販売している。
麦飯石溶液なら、フレックスのものが
一番おすすめ。
ソネケミファ→主に麦飯石溶液を扱っている。
フレックス製のものよりも作りが
悪いので、おすすめできない。
キョーリン→主に魚用の飼料を扱っている。
魚用飼料のパイオニア企業であるため、
エサならキョーリン製が一番良い。
ブランド名は「hikari」（ひかり）である。
日本動物薬品（ニチドウ）→主に魚用の薬を扱う。

薬ならニチドウ製が一番。
ニッソー→アクアリウム商品全般を扱うが、主に
水槽セットなどを販売している。
トリオコーポレーション→アクアリウム商品全般を
扱う。水質コンディショナー
の販売数が多い。
スドー→アクアリウム商品全般を扱っている。
主に底砂などの小さなアクセサリー等を
扱う。ブランド名「スターペット」が目印。
ヘーゲン→現在は大きく企業展開はしていないが、
水質コンディショナーの商品数が多い。

☆魚の混泳について☆

違う種類の魚を混泳させる時は注意が必要である。
特に、金魚や熱帯魚の混泳には要注意。
野生の川魚などに比べて、金魚や熱帯魚の
種類の多くは体が丸く、泳ぎが下手なので、
混泳させてしまうと、金魚や熱帯魚などの
泳ぎが下手な魚が、野生（または体の形が
野生に近い品種）の魚に連続した攻撃を受け、
弱ってしまう。その結果、病気を発症し、
攻撃を行っていた野生の個体まで、病気に
感染してしまうという悲しく、平常の飼育と比べて、
かなり大変な作業を行わなければならなくなる。
従って、野性は野生同士、金魚の中や熱帯魚の
中でもそれぞれ体が長いもの同士、丸く短いもの
同士で、そろえる必要がある。

☆参考URL☆

http://www.kingyoaquarium.com/

http://www1.kcn.ne.jp/~puni/

14　補足

☆活き餌（天然飼料）について☆

第7章では、人工餌のみの紹介だったが、
ここでは、「活き餌」及び、天然飼料を紹介する。
活き餌とは、人工餌と違い、天然の生物を
生きたまま、又は冷凍・乾燥された飼料のことである。
3種類の活き餌、天然飼料を紹介する。

赤虫→ユスリカ（蚊の一種）の幼虫。現在は、
活き餌より、冷凍・乾燥された赤虫の流通の
方が多い。非常に高蛋白なので、成長が
早くなり、立派に育てることが出来る。

糸ミミズ→水棲の細長い集団生活をするミミズの一種
現在は、冷凍・乾燥された糸ミミズの流通
が多い。腐敗が早いので、購入後できるだけ
早く使用したい。脂肪分が多く含まれている
ので、大きく育てることが出来る。

ミジンコ→主にタマミジンコという種類の流通が多い。
魚が小さい場合や、産まれたばかりの
魚に与えると良い。現在は、冷凍・乾燥

されたミジンコの流通が多い。

※注意すべきこと

① 冷凍飼料の解凍液は飼育水に入れない。
② 天然飼料のみで育てることは避ける。
③ 鮮度の良いもののみを与える。

☆冷凍飼料の選び方☆

冷凍飼料には様々な種類があり、どれを選べば良いのか迷うほどである。そこで、正しい冷凍飼料の選び方のポイントをここでまとめる。

① 冷凍飼料の殺菌レベルを確認する。
→冷凍飼料の活用で最も気をつけたいのが、水槽内への病原菌の侵入である。
すなわち、病原菌を持っていた活き餌を殺菌せずにそのまま冷凍・梱包している商品は選ばないようにすることが大切だ。

② 買い溜めしない
→冷凍飼料の買い溜めは、鮮度・品質の劣化（悪化）を引き起こすのでしないようにするのが賢明。

③ 添加栄養分の表示があるかどうか見る
→冷凍飼料の中には、活き餌の冷凍物の他に、各種ビタミンなどを添加して販売（商品化）されているものが幾つかある。普通の冷凍飼料

より、栄養分の摂取の観点から、非常に優れていると言えるので、経済的な余裕があれば、使用すべきである。

☆魚の繁殖について☆

魚は、春と秋の2回繁殖を行う。しかし、現代では魚を屋内の水槽でヒーターなどの加温器具を使用して飼育する方法が多く採用されており、1年中繁殖シーズンといった環境であることが多い。
繁殖は15℃～25℃の間で行われ、一度に大量の卵を水草などに産み付ける。ある日突然、飼育水が白く濁るといった現象が起きれば、繁殖の影響である可能性が高い。その場合の対処方法（1）と、人工授精（2）について説明する。

（1） 魚が自然繁殖した場合は、卵が産み付けられている水草を水槽から取り出し、他の水温を合わせた容器で孵化するまで待つ。
注意すべきことは、孵化用の容器では、必ずエアレーションをすること。
孵化後、しばらくは腹の中の養分を

吸収して生活するので、稚魚が泳ぎ出したら稚魚用の餌又はミジンコ、ブラインシュリンプ等を与えると良い。

（2） 魚の人工授精は極めて稀で、専用の器具が必要である。魚の卵の特徴として、未受精の卵は一度、水に触れるとその時点で精子を受け付けなくなる。よって、人工授精を行う時は、生理食塩水を使用することになり、細心の注意が必要となる。また、精子を取り出す時に注射器を使用するので、直接刺すわけではないが、細心の注意と、手先の器用さが必要となる。

¡。

ナ